

平成23年度第1回障がい者施策推進協議会議事録

1 開催日時 平成23年5月30日（月）午後1時15分～午後4時

2 開催場所 春日井市役所3階 304・305会議室

3 議題

(1) 障がい者総合福祉計画改定に係るアンケート調査の結果について

(2) 障がい者総合福祉計画の進捗状況について

(3) 障がい者自立支援協議会について

(4) 障がい者総合福祉計画の改定について

(5) その他

4 会議資料

資料1 障がい者施策推進協議会委員名簿

資料2 障がい者総合福祉計画改定に係るアンケート調査報告書

資料3 障がい者施策の状況

資料4 障がい者総合福祉計画具体的施策の実施状況一覧表

資料5 地域自立支援協議会の状況

資料6 障がい者総合福祉計画改定の基本方針

5 議事内容

議事に先立ち、新委員への委嘱状交付

新委員あいさつ

鈴木部長あいさつ

会長あいさつ

〈議題1 障がい者総合福祉計画改定に係るアンケート調査の結果について〉

【木全会長】 3月11日以降黙祷をする機会がありました。学生を含め、かなりの方が被災地に支援に向かい、大学等で報告を受けております。障がいのある方、高齢者などの災害弱者として、支援の必要な方に対して、支援が途切れてしまうという状況になって

います。今回は、障がい福祉計画の見直しであります。幸い春日井市は、総合福祉計画のなかで見直しを行うということですので、防災対策・災害支援の部分も手厚く検討していただきたいと思います。それでは議題に入りたいと思います。

(事務局から説明)

【木全会長】 ありがとうございます。ただいま事務局からご説明がありましたが、それぞれのお立場から、忌憚のないご意見をお願いいたします。

【田中委員】 アンケートの中味というだけではなく、常々思っていることですが、身体障がい者のなかでも肢体不自由という言葉は幅が広く、肢体不自由をひとつにまとめて、身体障がい者とするのは、疑問に思い、複雑な思いです。

【木全会長】 全国調査でも肢体不自由となっておりますが、分類名としてくくらず、障がいの特性をみていく必要があると思います。大事な項目だけでも障がいの部位別に詳しく分析をお願いしたいです。

【西澤課長】 今後の検討課題として、わかるものについては、集計分析を行っていきます。

【木全会長】 この調査項目とこの調査項目というものがあれば、分析が可能となると思います。

【筒井委員】 年齢の区分で身体障がいの方で、先天的なものと後天的なものとの施策を同じにしているのか検討が必要であると思います。このアンケートをしっかりと分析して、施策の検討に活かしていただきたいと思います。

【西澤課長】 筒井委員からのご指摘は、今後の身体障がい者における分析の課題とさせていただきます。

【富樫委員】 相談相手について、家族の割合が高い。家族への相談が高いとすると、施策の中に本人のほか、家族への支援が必要となると思います。高齢者虐待の集まりにおいて、予防という意味でも親や保護者に対する支援策を検討していく必要があるとアンケート調査結果として感じました。

【澤井委員】 3年前とくらべて、支援センターなど身内以外の相談相手が増えてきた印象があります。また、無視してはいけない点として、相談する相手がいない方がいる点があります。こういう方が孤立しないようにしなければならないと思います。また「その他（括弧書き）」の中身について興味があります。

- 【西澤課長】 その他の括弧書きについて次回資料として提示していきたいと思います。
- 【吉川委員】 アンケート調査は、精神障がい者は1級、2級を対象としているのでしょうか。
- 【西澤課長】 精神障がい者手帳の所持者である1級から3級までの方を対象としています。
- 【田並委員】 田中委員からもありましたが、先天性、後天性のちがいや、手帳の等級ごとも状況は異なると思いますので、細かく分析すると、施策の検討に活かせると思います。地域移行において、短期入所やデイケアなどを利用して介護されている親、保護者や家族がかなり疲弊しているのではないかと想像されますが、そのあたりも踏まえて分析していただきたいと思います。
- 【井村委員】 アンケート調査の回収結果について、19年調査に比べサンプル数を増やし、障がいのない人も含めて調査を実施していますが、回収率に対する評価についてお聞かせください。また、福祉の情報入手について、春日井市の広報に依存している率が高いが、前回と比べると下がっています。最近インターネットなどの利用により変わってきているのが気になります。また、132ページからの自由意見は、障がい者の生の声なので、注目していただきたいと思います。
- 【西澤課長】 アンケート調査の回収結果については、今回の回収率は57.5%は、前回の回収率51.4%より高くなっています。広報については、福祉サービスの制度改正の際には随時掲載しています。また、12月には1ページ強を使い、啓発記事を掲載しています。しかし、身体障がい、知的障がいについては、見ていただいているが、障がい児が下がっているので、今後の検討課題としていきたいと思います。
- 【中村委員】 性別について、調査結果は、6割が男性、4割が女性ですが、本校でいうと7割が男子、3割が女子、教職員の割合は、7割が女性、3割が男性となっています。当事者の年齢が上がるにつれて、同性介助が当たり前となっており、支援体制に無理が生じてきています。難しいことですが、生活介護などの福祉サービスの質を向上させるには、対応する職員の資質だけではなく、性別にも着目することが必要だと思います。
- 【西澤課長】 確かにヘルパーについては、男性が少なく、同性介助を希望される方が多くありますが、なかなか叶わないのが現実です。そのような状況も念頭に置く必要があると考えています。

【木全会長】 このようなことは、自立支援協議会、事業所連絡会などで課題として取り上げていく必要があると思います。

【田中委員】 自由意見について、「アンケートの意味がない」「情報提供をしてほしい」などがみられます。当事者の親として、サービスや情報を受ける側だけではなく、自ら福祉課等へ積極的に取りにいく姿勢が必要だと思います。

【木全会長】 まだまだ分析が十分でないので、この調査分析から施策に反映していく必要がありますので、アンケートはこれで終わりではなく、進めていただきたいと思います。

【西澤課長】 アンケートの分析を踏まえて、障がい者計画への反映を検討していきます。

〈議題2 障がい者総合福祉計画の進捗状況について〉

(事務局から説明)

【木全会長】 ありがとうございます。障がい者施策の状況について、ご意見ございますか。

【中村委員】 社会福祉協議会が担当する「車いすの貸与」は学校教育において一度に何台対応しているのか、運搬についても無料ということでしょうか。

【西澤課長】 車いす利用可能状況について、最大10台まで貸与可能ということです。運搬も無料で、ボランティアが指導をするそうです。

【澤井委員】 春日井シティバスについてコロニーに行きたい場合、せめて愛知学園の前まで運行するなどしてほしいです。駅周辺については勝川駅が新しくなったけど身体障がい者用の駐車場に屋根がないので不便であると聞いています。

【西澤課長】 春日井シティバス、勝川駅関係へご意見があったことを伝えて、確認します。

【田中委員】 JR春日井駅の自由通路の件は、人のみの通路で車では遠回りすることになって、残念です。

【木全会長】 担当課の会議もありますので、障がい者当事者の意見が踏まえられているのか確認をお願いします。

【澤井委員】 春日井シティバスについて、手帳を見せないといけないと、手帳の紛失など危険であり、パスカードの発行などを検討してほしい。災害時要援護者支援について、災害時のことについては細かいところまで検討してもらいたい。

【事務局】 安否確認については、対象は高齢者だけでなく、障がいのある方も対象になっており、障がいのある方312名ですが、等級・判定の制限がありますので、中度、軽度の方をどうするかが課題となっています。

【井村委員】 平成22年度の実績については、啓発と交流の推進、福祉サービスの充実でのケアマネジメントの推進など、実施状況や実績のないものについて、どういう理由によるのか、23年度はどうするのかを説明してください。

【木全会長】 多岐に渡りますので、実施せず、実施できなかった理由をご説明お願いします。

【佐藤委員】 雇用就労の促進については、ハローワークが役割の大半を担っているので、連携して実施できるとよいと思います。

【木全会長】 県などの他の機関と市が連携していることもあるので、市が実施していないことをもって、「実施せず」とするのではないと思います。その辺りを含めて説明をお願いします。

【西澤課長】 まず、障がい者権利条約の啓発については、それ自体が難しい内容であり、市民の方に正しく理解してもらうための効果的な啓発方法を検討していきたいと思います。次に交流支援については、すでにあっとわんなどの事業所や子育てサークルなどにおいて、親同士の交流がなされていることもありますが、今後もこうした交流を推進することとしたいと思います。共同生活援助の促進については、グループホーム・ケアホームの新設の申出がありませんでした。雇用の促進については、ハローワークと連携を図りながら進めていきたいと思います。サービス提供基盤の拡充については、目に見えた形では実績となっていませんが、事業所同士の情報交換の場や自立支援協議会の日中活動部会などの場において、機会あるごとに働きかけを行っています。また、虐待の防止については、差し迫った事案は発生していませんが、行っていく必要があると思います。宿泊体験の研究については、当事者団体からの要望もあり、どのような形で実施していくかを見据え、見学もさせていただきました。障がい者の方の防犯対策については、現在できていないので、今後具体的にお示ししたいと思います。

【木全会長】 事業の実施の有無については、その事業が役割を終えたのか、単に実施されていないのかで意味合いが違うと思います。これから計画を見直すに当たり、今のようなお話であれば「実施せず」ではなく、今後は具体的にご報告いただけたらよいかと

思います。

〈議題3 障がい者自立支援協議会について〉

(事務局からの説明)

【佐藤委員】 中部大学との連携については、どのような内容ですか。

【住岡相談員】 精神障がい者のひとり暮らしの支援、住まいの問題について、連携して研究、支援していければよいと思っています。

【富樫委員】 かなり丁寧に実施されているのはわかりましたが、各部会でどのような課題があったのか、詳しく知りたいと思います。また施策推進協議会に上げる項目はあったのか教えてください。

【清水主査】 まず、教育部会では、学校と他の機関の連携を作り上げ、学校が抱え込まない体制を作り上げることが課題となっています。医療部会では、在宅で医療が必要な障がい者を福祉サービスにつなげることが課題となっています。特にコロニーに依存しがちな障がい者の方が町医者に安心してかかれる環境を確保することが話題の中心となっています。精神部会については、医療機関、施設、保健所などそれぞれの機関がそれぞれどのような役割を担っているかを共有し、どうすれば障がい者が地域で暮らしやすくなるかが課題となっています。

【木全会長】 施策推進協議会は、自立支援協議会から上がってきた課題を検討し、解決する場所となるのが望ましいと思います。自立支援協議会の資料をそのままいただければ、より具体的に状況が把握できるので、次回からはそうしていただきたいと思います。施策推進協議会と自立支援協議会は役割分担をして、一緒にやっていきたいので、ご配慮をお願いしたいです。

【西澤課長】 今年度は、第1回の自立支援協議会が開催できていないので、報告書が整わず申し訳ありませんでした。次回会議で改めて報告させていただきます。

【田中委員】 自立支援協議会は当事者から見てもかなり丁寧に検討していただいています。

〈議題4 障がい者総合福祉計画の改定について〉

(事務局から説明)

【木全会長】 障がい者総合福祉計画の見直しの基本方針と障がい者を取り巻く現状について事務局より説明がありました。スケジュールについてご説明いただいたもので進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

【西澤課長】 ありがとうございました。次回の障がい者施策推進協議会については、8月23日を予定しております。

【木全会長】 では、これで会議を終了します。お疲れさまでした。

上記のとおり、平成23年度第1回春日井市障がい者施策推進協議会の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長が署名及び押印する。

平成23年9月1日

会 長 木 全 和 巳

委 員 神 田 進